

「香川大学デジタルONEアンバサダー」による 内製業務システム運用状況の現状分析

武田啓之 米谷雄介 神馬豊彦 川瀬舞 小寺賢志 末廣紀史 浅木森浩樹 山田哲 油谷知岐 八重樫理人
香川大学DX推進研究センター

「香川大学デジタルONEアンバサダー」の取り組み概要

- 「市民開発」とは、非情報人材である事業部門がローコード・ノーコードプラットフォームなどを用いてシステム開発をおこなう活動全般を指す
- 「デジタルONE アンバサダー」は、非情報人材である事業部門職員が任命されており、「デジタルONE アンバサダー」による業務システムの内製開発は、この「市民開発」の取り組みに該当する
- 「市民開発」はIT人材不足を解消し、開発コストが削減できるなどのメリットがあるが、開発には一定程度の研修が必要であるというデメリットも指摘されている
- ガートナーは、事業と情報技術の両面からのアジャイルなチームを「フュージョンチーム」と定義し、それを組織内に設置することを推奨した
- マイクロソフトは、「フュージョンチーム」による開発を「フュージョン開発」と定義した
- 香川大学の「DX ラボ」、「DX 推進研究センター」、「デジタル ONE アンバサダー」が、それぞれ「フュージョン開発」の「プロ開発者」、「ITプロフェッショナル」、「市民開発者」の役割を担っている（図1）
- 2023年度は、「**医学部DXプロジェクト**」を実施し、**45日間で10システムを開発**した（図2）
- DX推進研究センターはデータに基づいて市民開発を支援する方策を策定すべく、アンバサダーに取組状況の報告を依頼している
- 2022年度、2023年度合わせて、**179件の報告があり、2024年5月時点で145件（およそ8割）の取組は継続中**であることがわかった

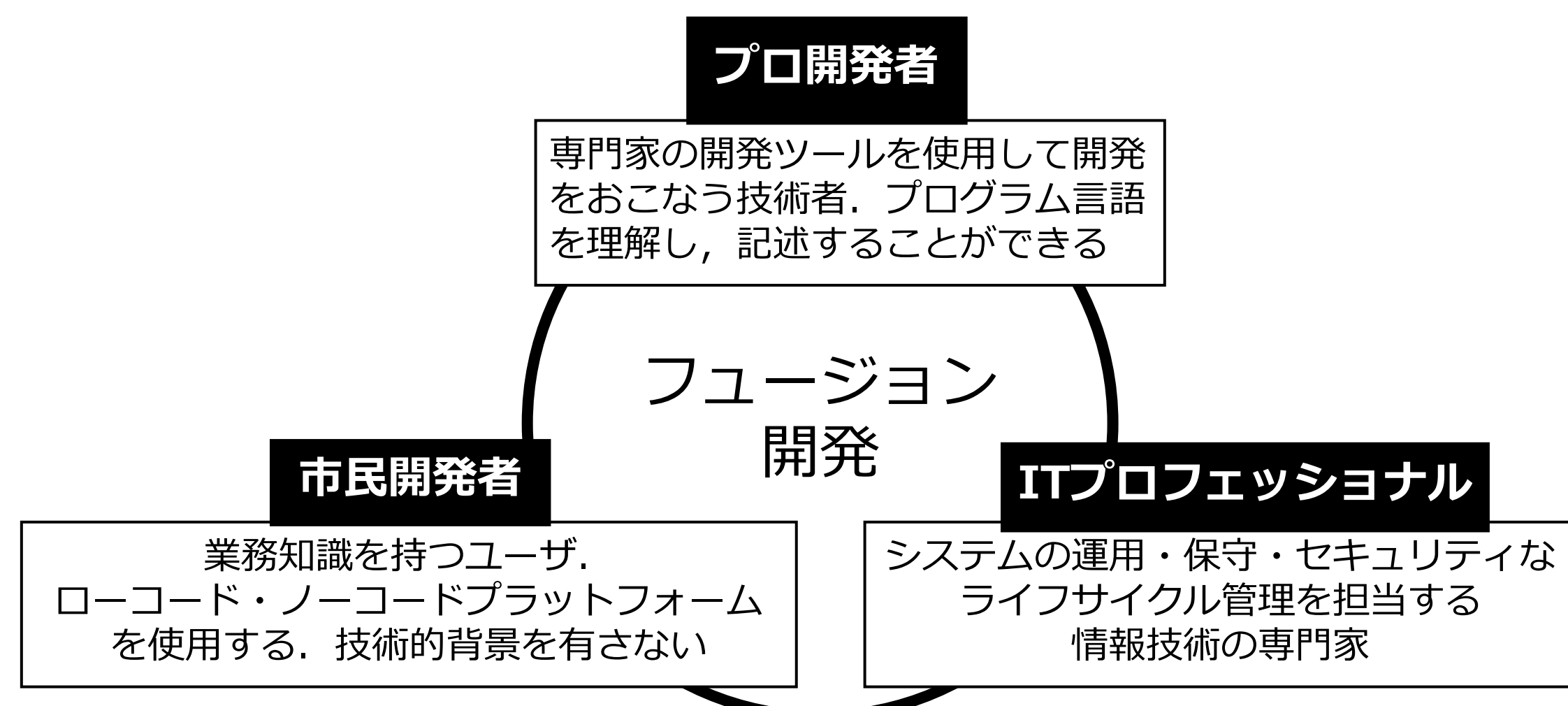


図1 フュージョン開発



番号	システム名	組織名	発表者
1	Outlook予定表活用推進の取り組み	医学部 医事課	福家
2	共有メールBOXの活用方法の周知	医学部 管理課 (情報システム課)	上田
3	人事情報登録システム	医学部 総務課人事係 (情報システム課)	木村
4	落とし物管理システム	医学部 学務課学生係	西尾
5	病院見学 学生申請・依頼文発行システム	医学部 学務課学務係	福井
6	規程制定改廃申請システム	医学部 総務課広報法規・国際係	小塚
7	香川県内救急患者分析システム	医学部 経営企画課	田竜
8	医学部自動車入構申請システム	医学部 管理課庁舎係	立石
9	自家用車業務使用申請書申請システム	医学部 総務課総務係	篠原
10	証明書申請システム	医学部 総務課人事係 (情報システム課)	木村

図 医学部DXプロジェクトの成果（45日で10システムを開発）

内製業務システム運用状況の現状分析

- 実際の業務に合ったソリューションの開発や、アンバサダーのニーズに合ったハンズオンの提供などを目的として運用状況を分析した
- 早稲田大学の「現場担当者が開発したシステムの業務パターン」（16パターン）をモデルとして利用し、各取組を分類した
- 179件のうち**116件（およそ3分の2）は、業務パターンに当てはまる**ことがわかった（図3）
- 2023年度は前年度比で総数は減っているが「**申請・承認**」「**申請・マスタ更新**」などのより高度な取組にシフトする傾向が見られた
- 申請系の中でも**ファイル処理を伴う取組が他の申請系と比べて少ない**ことから、本取組に対する支援が必要である可能性がある

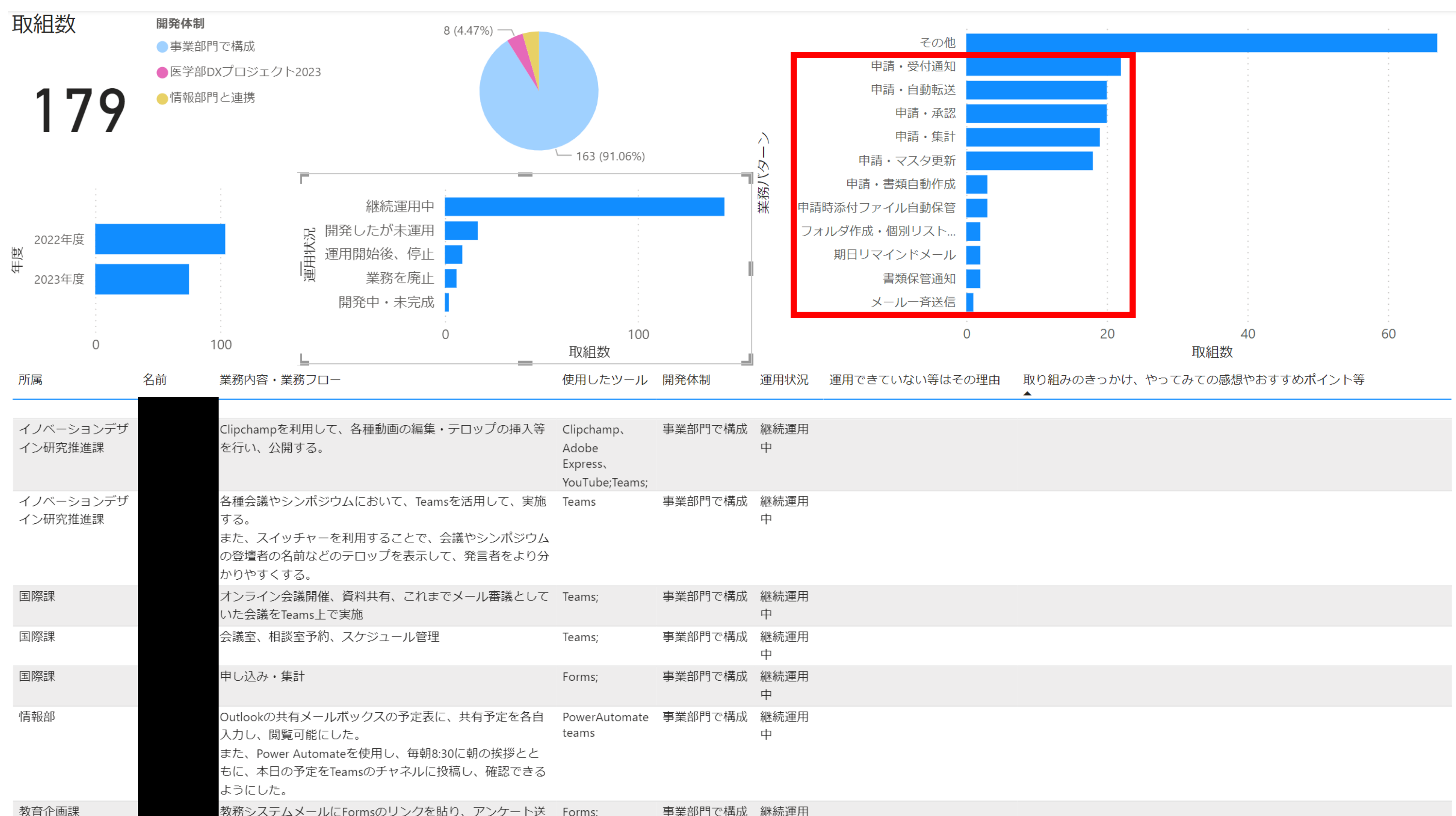


図3 市民開発状況分析・可視化システム

今後の活動

- 内製業務システムの開発状況・運用状況を踏まえて、**ハンズオンを漸進的に高度化**させていく
- 業務パターンに準拠したソリューションを提供し、香川大学の業務システム内製開発を支援する
- 「その他」に分類されたシステムもパターン化できないか検討を進める
- 本システムの情報をアンバサダーにも共有することでDX推進の取り組みを考える材料を提供する
- 管理職にも情報共有することで所管部課のDXに向けた組織的支援を考える材料を提供する

